

## 授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

初回の授業で各4名からなるグループを構成し、グループで課題に取り組む時間を毎回設けた。

授業目標自体に、アクティブ・ラーニング型の授業を体験し、将来指導できるようにすることを目指しています。独自のワークブックも開発しました。ほぼ全部の回(ガイダンスとテストを除く)で協同学習を取り入れています。また、最後に、今後の4年間でどのように学んでいくかの行動計画を書いてもらいました。また、e-learningを使つての相互評価や課題の提出、振り返りも行っています。

・一年生が専攻内の3履修モデルでの学びを理解していくため、各モデルから1名ずつ教員を担当者としている。  
・教員による講義的内容によって、大学でも学びに必要なスキルを教えるとともに、それを使って学生同士の横の交流ができるように発表－討論型の授業スタイルも採用している。

学生が、大学の授業、学習を、実践を通して実感的に理解できるように演習方式を多く取り入れている。

・レポートの書き方等のアカデミック・スキルを育成するため、説明をした後で実際に演習を行っている。  
・学生1人1人がテキストを読んで要約したり、文献を使って調べたりする機会、さらにそれらを発表して質問に回答する機会を設けている。

レポート作成や議論のレディネスがどの程度できているかを、授業中に確認しつつ、なアカデミックライティングの指導が一方方向でなく双方向によるやりとりができるように心がけた。後半は学生のレポート発表を実施したが、同じ講座のほぼ全教員が毎回別グループに参加することにより、学生だけでなく教員の人となり伝えることとなり相互の理解を深めた。

できるだけ平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。また、簡潔にまとめた資料を配布した。  
一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行い、理解を深めるため計算問題を課した。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、関連する生理学的な仕組みについても適宜説明した。  
また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。  
一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

可能な限り、1、2回で完結する内容を取り上げ、休んでも出席した授業では理解できるように工夫した。  
また、その都度、資料を用意した。  
再帰の概念を理解してもらうために、自作のプログラム教材を開発して授業で利用した。

講義内容が理解できているかどうかを確かめるために、適宜小レポートを実施している。また、自発的な学習を促すためにプレゼンテーションや討論などを取り入れている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

e-learningによるテストの得点, レポートの完成度, レポートを提出する際の送信メールの適切性, グループ課題への取り組み, 出席率, 以上のそれぞれに重み付けを施した値を合算したものを総合評価とした。

個人点として、出席、メールやワード課題、振り返り、行動計画、テストの点数、グループ課題として、グループで提出した課題の評価を合わせて成績評価を出しました。

出席状況(50%)、文献のまとめの発表と討議(コメント記述含む)(30%)、および最終レポート(20%)を総合して評価した。

出席状況, 発表, 最終レポートに基づいて。

出席状況50%、発表30%、最終レポート20%  
・出席: 無断欠席の場合 = -2点(1回につき)  
・発表: 報告18点(レジュメ10点、発表・質疑応答8点)  
コメント2点×6回(1回ごとに3点満点で評価し、後に2点に換算)  
・最終レポート: 20点 (1,600字~2,400字)

主にはレポート発表の内容とプレゼン・聴講態度から評価した。

授業中の態度や意欲、レポートの優劣などから総合的に評価した。

現代的課題

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60\text{点}) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60\text{点}) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

5, 6回の課題のレポートの成績を合計して成績をつけた。2回のレポートは授業の終わりに課題の用紙を配布した。従って、その時に出席していなかったものは、用紙が無いので、提出は友人からコピーして提出する

生徒もいたが、それらは減点して採点することにした。

まじめに取り組むものもいたが、友人のレポートをコピーしたと思われるレポートも散見される。この辺りがレポート課題の問題点と言える。

最終レポートは個人のオリジナリティを問う課題であったが、サンプルそのままを写しただけのレポートも多い。

授業中に提出した小レポートの内容と、プレゼンテーションにおける発表内容の創意工夫、そして期末レポートの内容を加味して総合的に判定した。形式面で提出物などが整っていたとしても、内容面で創意工夫が見られない場合は不可と判断した。

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

同じ内容の授業を同じ方法で2クラス連続で開講したのだが、問3, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 15, 等は回答の傾向がクラス間で異なっていた。特に問8~11のように教員に対する評価を含む設問で回答が大きく異なっていたことから、クラスの構成に応じて説明のための表現を使い分ける, 等の必要性を感じた。

内容が多く、目標が不明確な回もあったようなので、来年度に向けて内容の厳選を行いたいと思います。また、振り返りなどを、もう少しきちんとできるようにしたいと思います。

・問13と14は、授業の難度および内容量についての項目であるが、これらについて受講生の評価は「ちょうど良い」が8割近いものの、2割弱が「難しい」「多い」と回答した。担当者間ではかなりの打合せを重ね、一年生の入門期に必要な内容を精選したが、もう少し内容の取り上げ方に工夫が必要かもしれない。今年度は、講堂で行う全体講義も多く、このあたりを柔軟にさせていただけると専攻で使う授業時間も確保できると思われる。

問11が、1, 2の回答割合が5割強と、他の質問に比べてやや低いように思うので、ここは改善の必要があるかと思う。

自由記述で「感想を書きながらプレゼンを聞くのは難しい」という意見があった。昨年度まではプレゼンの後に、授業外で復習(課題)として発表者へのコメントを書かせていたが、今年度は指示が徹底しておらず、確かに多くの学生が授業中にコメントを書いていた。次年度は見直したい。

概ね肯定的に評価されていたが、自分の表現で伝えることができるので若干低い値となった。発表によって自己不全感を高めたことも考えられ、良かった点も積極的に伝えていくことが必要と考えられる。教員とのコミュニケーションがうまくとれているかどうかについては「どちらでもない」が多く、課題と考えられる。前半の全員への講義が一斉授業になってしまうので、小グループに分割したほうがよいかもしれない。

授業が難しいとの評価が多かったので、もう少しわかりやすく教示できるよう工夫したい。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う』が12.73%『ややそう思う』が46.0%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う』が1.6%『ややそう思う』が17.5%で、目標が十分達成できたとは思っていない学生も多数いるようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が23.8%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が85.7%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった学生も多数いる、と解釈できる。今後は、授業内容を吟味し説明を工夫するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

学生の理解の程度の把握の必要性を感じた。特に、課題の出来をみて判断するだけではなく、授業中に指名して答えさせるという活動を取り入れてゆきたい。

自発的な学習をさらに促すために、図書館の活用などハード面での利用促進を進めていきたい。